

平成30年度「オリンピック・パラリンピック・ムーブメント全国展開事業」

事業実施報告書

- | | |
|-----|------------------------------------|
| I | スポーツ及びオリンピック、パラリンピックの意義や歴史に関する学び |
| II | マナーとおもてなしの心を備えたボランティアの育成 |
| III | スポーツを通じたインクルーシブな社会（共生社会）の構築 |
| IV | 日本の伝統、郷土の文化や世界の文化の理解、多様性を尊重する態度の育成 |
| V | スポーツに対する興味・関心の向上、スポーツを楽しむ心の育成 |

道府県・政令市名【札幌市】

1 実践テーマ	【 I 】
2 実施対象者	札幌市立拓北小学校 第3学年 54名
3 展開の形式	(1) 学校における活動 ① 教科名 (社会科) ② 行事名 () ③ その他 () (2) 地域における活動 ① イベント名 () ② その他 ()
4 目標 (ねらい)	・冬季オリンピック札幌大会について調べたり見学したりする活動を通して、オリンピック・パラリンピック競技への理解を深めるとともに、人々が利用するオリンピックミュージアムの公共施設としての働きについて調べる活動を入口として、市の公共施設の場所と働きについて考えを広げることができる。
5 取組内容	○指導計画【5時間扱い】 ・身近な公共施設（図書館、動物園など）を調べる活動を通して、公共施設はどのような施設なのか理解する。(1/5) ・札幌オリンピックミュージアムを提示し、既習の公共施設との働きと比較することで、新たな公共施設への視点をもちどのような施設なのか問題意識をもつ。(2/5) ・札幌オリンピックミュージアムを訪問し、展示物の見学や冬季スポーツ体験コーナーの利用を通して、冬季オリンピックについての理解を深める。(3/5-4/5) ・オリンピックに携わった人々の願いや努力と関連付けて、札幌オリンピックミュージアムの見学で学んだことをまとめ、札幌市への誇り愛情をもたせる。(5/5) ○取組の様子 ・本学習を社会科の単元「わたしのまち みんなのまち」に位置付け学習を進めた。 ・札幌オリンピックミュージアム見学前には、「大倉山から見える札幌市の様子」「札幌オリンピックに向けてつくられたもの」「札幌オリンピ



	ックミュージアムの施設」などについて調べ学習を行った。 ・パラリンピアンのお話を、興味深く聞いていた。講師が強く伝えたいと言っていた「失われたものを数えるな、残されたものを最大限いかせ」という言葉は全員が自分のしおりに書き写していた。 ・館内を自由に見学する時間には、体験コーナーで冬のスポーツを疑似体験することができた。 ・事後学習では、オリンピックと冬のスポーツの視点からまとめ、楽しさや凄さなどの魅力を伝える施設であるということに気が付き、冬季オリンピックが日本で札幌を含め 2 都市でしか開催されていない事実を知り、改めて札幌への誇りをもつことができた。	  
6 主な成果	・パラリンピアンのお話からパラリンピックの歴史や競技種目、選手の障がいの状況や気持ちを知ることができ、パラリンピックに対する関心が高まった。 ・いろいろな障がいがあっても、工夫することで、できることが増えることを学んだ。 ・札幌オリンピックミュージアムと他の公共施設を関連付けることで、「本施設がどのような働きをしているのか」という課題意識をもち、見学への意識が高まった。	
7 実践において工夫した点	本教材は、学習指導要領で示されている社会科の目標「地域社会に対する誇りと愛情、地域社会の一員としての自覚を養う」ことに適した教材である。したがって、見学で誇り、愛情など子どもの情意面を養うために、見学の前にオリンピックについて、また冬季オリンピックのについて教え、理解を促した。事前に学んだ知識があることで見学では更に様々な視点に気が付き、目標が達成され考えた。	
8 主な課題等	・施設見学の時間が短かった。子どもが自由に体験したり施設についてじっくり調べたりする時間を確保したかった。 ・展望台に行く際、リフトを怖がる児童がいた。下りのリフトに乗ることを嫌がったため、帰りの出発が遅れてしまった。3年生の場合スキー場でのリフト経験がない児童がいることから、事前の把握が必要だった。	
9 今後の取組について	次年度も社会科の単元「わたしのまち みんなのまち」の中で、冬季オリンピック札幌大会と札幌のまちづくりを関係付けて指導する予定。見学については、次年度の学年で相談する。	